



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 京都大学生物資源経済研究 2006, 11

ISSUE DATE:

2006-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/50609>

RIGHT:

京 都 大 学

生物資源経済研究

No. 11

2005年

- 農地改革の史的前提―戦時農地政策の帰結―野田 公夫 (1)
- 戦後東ドイツ農業集団化のミクロ・ヒストリー
―ロストク県バート・ドベラン郡を中心に―足立 芳宏 (21)
- 豪州・中国間自由貿易協定の動向とその経済波及効果加賀爪 優 (67)
- 中国における草原牧区の経済改革と草原退化・砂漠化問題
―「家庭経営請負制」は全ての草原地域に最適な経営制度なのか― 沈 金虎 (87)
- 環境ガバナンスとリスク分析武部 隆 (101)
- タンザニアにおけるコーヒーの価値連鎖の再編
―流通制度改革と小農民―辻村 英之 (117)
- 地域レベルにおける廃棄物の発生・処理に関する量的把握
―有機性廃棄物の循環システム構築への基礎作業―
.....香川 文庸・伊藤 繁・徐 世旭 (137)
- 文化としての農業・文化としての食料 (2)
―「城壁のない都市」京都の都市農業―末原 達郎 (161)
- Assessment of Farm Support Policies and Impacts of CAP Implementation
on Farm Structures and Sustainability in Bulgaria
.....Hrabrin Bachev and Masaru Kagatsume (173)
-

京 都 大 学 大 学 院 農 学 研 究 科
生 物 資 源 経 済 学 専 攻

『生物資源経済研究』規定

1. 投稿資格・著作権・編集要領

- 1) 単著論文の投稿資格者は、生物資源経済学専攻（以下、専攻と略記）教員、本専攻在籍中ないし在籍後5年以内の内地
 ・ 研究者・外国人招聘学者・外国人共同研究者、および編集委員会で特に認めたものとする。なお、別途定める『生物資
 ・ 源経済研究』内規に基づき、本専攻の院生（およびこれと同等以上と認められる者）も、専攻会議の了承のもとに投稿
 ・ できる。
- 2) 共著論文の第一執筆者は本専攻教員に限定するものとする。
- 3) 著作権：本誌に掲載された論文・抄録の著作権は、本専攻に属するものとする。なお執筆者自身が自らの論文を利用す
 ・ ることは差し支えないものとする。
- 4) 原稿の採否の決定：原稿の採否は、査読にもとづき編集委員会が行うこととする。採用決定日をもって受理日とする。
- 5) 発行回数と別刷り：年1回発行を原則とする。別刷りは各原稿当たり20部まで無料で著者に贈呈し、それ以上は著者の
 ・ 実費負担とする。
- 6) 著者校正：著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

2. 執筆要領

- 1) 原稿種別は論文と研究ノートの2種とし、投稿者は投稿時に種別を明記する。
- 2) 原稿枚数は、図・表を含め、和文の場合は横書き400字詰め原稿用紙換算で50枚以内、英文の場合は、A4用紙にダブル・
 ・ スペース（28行、1行10～15単語）で30枚以内を目安とする。和文の場合は英文抄録（300単語以内）と英文題名を、英
 ・ 文の場合は和文抄録（800字以内）と和文題名を投稿時に添付する。原稿は完成原稿とそのハード・コピー2部を、デー
 ・ タ・ファイルを添付の上で、編集委員長ないし副委員長に提出するものとする。
- 3) 特殊な専門用語・学術用語のほかは、原則として新仮名遣い・常用漢字を使用する。
- 4) 論文の節項表示は、1. (1)、1)、aのようにする。
- 5) 単位は%、kg、haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。
- 6) 図表は、図1、表1 (Fig1. Table 1) のように示す。また図表の挿入位置については、完成原稿の右余白に朱書きで明示
 ・ する。
- 7) 本文注記は各頁ごとではなく本文末尾に一括して掲載する。また引用文献は注記を原則とし下記の要領によるものとす
 ・ るが、各分野学会誌の様式に準じた表記も認める。
 - 1) 和文の場合
 - a. 著者名『書名』（シリーズ名）、出版社、出版年（奥付けによる）、ページ。
 - b. 執筆者名「論文名」、編著者名『書名』（シリーズ名）、出版社、出版年、ページ。
 - c. 執筆者名「論文名」、『雑誌名』巻号（年月）、ページ。
 - 2) 欧文の場合
 - a. 名頭文字. 姓, 書名（出版他：出版社、出版年）, p. (または pp.)
 - b. 名頭文字. 姓, “論文名”, 雑誌名, 巻号（月, 年）, p. (または pp.)

付 記

- (1) 本規定の改正は専攻会議の承認を得なければならない。
- (2) 本規定は平成7年9月14日より実施する。
- (3) 本改正は平成13年7月31日より実施する。
- (4) 本改正は平成17年2月1日より実施する。

執筆者紹介（掲載順）

野田 公夫	京都大学農学研究科（比較農史学分野）
足立 芳宏	京都大学農学研究科（比較農史学分野）
加賀爪 優	京都大学農学研究科（地域環境経済学分野）
沈 金虎	京都大学農学研究科（地域環境経済学分野）
武部 隆	京都大学農学研究科（食料・環境政策学分野）
辻村 英之	京都大学農学研究科（農業組織経営学分野）
末原 達郎	京都大学農学研究科（農学原論分野）
香川 文庸	京都大学農学研究科（経営情報会計学分野）
伊藤 繁	帯広畜産大学畜産学部
徐 世旭	韓国国会予算政策処
フラブリン・パチェフ	ブルガリア国立農業経済研究所 （元京都大学農学研究科外国人共同研究者）

『生物資源経済研究』第11号の編集を終えて

本年度も9本の論文が掲載された。事務的にも、授業においても多忙な日々が続く中で、本専攻の教員の研究者としての意識は、現在も高く維持されていると言っていいだろう。京都大学のいいところは、学問の自由の意識が強いことと学際的、国際的な研究環境におかれている点にある。そのめぐまれた研究環境を利用して、世界に問うべき論文が今後も継続的に出てくることを願ってやまない。

しかし同時に、本専攻が研究対象としている食料・農業・環境・経済・地域社会をめぐる諸問題は、ただ日本の国家だけではなく、国民ひとりひとりにとっても直接的な課題となりつつある。BSEをはじめとする食の安全の問題、発展途上国とわれわれとを結ぶ食の結びつきや貿易の問題、あるいは地震や大雪による地域社会の存続の問題など、日々問われ、解決を求められている課題は多い。それだからこそ、専門の研究論文を書くと同時に、論文を基にして、より広範な人々に対する説明の必要性が生じてきている。研究者もしくは科学者と社会との関係が、いまこそ再構築される時期に入っていると思う。

平成18年2月3日

編集委員長 末原 達郎

『生物資源経済研究』第11号編集委員（五十音順）

浅見 淳之 足立 芳宏 香川 文庸 末原 達郎（委員長）
武部 隆 沈 金虎 辻村 英之（副委員長） 吉田 昌之

生物資源経済研究 第11号

2006年3月25日 印刷

2006年3月25日 発行

編集 京都大学大学院生物資源経済学専攻
生物資源経済研究 編集委員会

電話 075-753-6201

発行 京都大学大学院生物資源経済学専攻
〒606-01 京都市左京区北白川追分町

印刷 創文堂印刷株式会社

平成 年 月 日

御中

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻

刊行物資料の送付について

このたび下記の『生物資源経済研究』を専攻紀要として刊行いたしました。御高覧いただきたく御送付申し上げます。

お手数ながら下添の受領書を御送付下さるようお願い申し上げます。

なお、今後新資料の御刊行の節は御恵贈賜りたくお願い申し上げます。

記

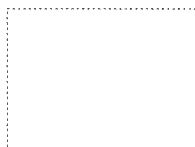
生物資源経済研究 第11号

1 部

2
0
5
8
6
0
6

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻司書室 行



The Natural Resource Economics Review

No. 11

2005

-
- The Historical Basis of the Agricultural Land Reform in Japan:
Result of the Wartime Farmland Policy Kimio NODA (1)
- Microhistory of Agricultural Collectivization in East German Villages:
Kreis Bad Doberan in Bezirk Rostock 1952-1960
..... Yoshihiro ADACHI (21)
- Australia-China Free Trade Agreement and Its Economic Impacts
..... Masaru KAGATSUME (67)
- The Economic Reforms and Grassland's Degradation and Desertification in
China: Is the Household Contract System a Best Institutional Arrange
for All of the Steppe Areas? Jin-hu SHEN (87)
- Risk Analysis for Environmental Governance Takashi TAKEBE (101)
- The Restructuring of Coffee Value Chain in Tanzania:
Reform of Distribution System and Its Effect on Small Farmers
..... Hideyuki TSUJIMURA (117)
- Quantitative Consideration on the Private and Public Disposal of Regional
Wastes: Basic Step for Circulatory System of Organic Wastes
..... Bunyo KaGAWA, Shigeru ITO, Sewook SEO (137)
- Culture, Agricultural Basic Complex and Food (2):
Urban Agriculture in Kyoto as a Capital City without *murailles*
..... Tatsuro SUEHARA (161)
- Assessment of Farm Support Policies and Impacts of CAP Implementation
on Farm Structures and Sustainability in Bulgaria
..... Hrabrin BACHEV and Masaru KAGATSUME (173)
-

Natural Resource Economics Division
Graduate School of Agriculture
Kyoto University